

アイヌ民族への抑圧と差別の歴史 道の推進方針に反映を



道はアイヌ新法に基づく推進方針を策定します。
 8月6日の環境生活委員会で、真下議員は、アイヌ民族に対する抑圧・差別の歴史を正しく伝え、文化・観光振興にとどまらない先住民族としての権利保障を方針に反映するよう求めました。

アイヌ民族は、教育でも差別を受け、今も進学率が低く、生業を奪われたことによる生活困窮が問題となっています。歴史を正しく伝える重要性を強調し、給付型奨学金の創設、エカシ・フチへの手当創設を交付金で実施するよう求めました。
 アイヌ政策監は「伝統的な生活や生産手段を失い、貧困にあえぎ、近年至るまでいわれのない多くの差別を受けてきたという歴史的事実があった」とのべ、道民理解の促進とこれまでの政策に加え、地域・産業・観光振興など総合的政策を推進すると答えました。

北海道

若者の生活実態調査実施

医療受診の我慢や進学への断念 貧困の実態が明らかに



道は、子どもの貧困対策等に反映するため、高校卒業後の若者世代の進学や就労状況など生活状況や経済状況の実態を調査し、9月9日の道議会少子高齢社会対策特別委員会に報告しました。

真下議員は、子どもの貧困、子どもを持たないことの影響と指摘される若者の生活実態に踏みこんだ調査と評価。母子ひとり親家庭の生活の厳しさが浮き彫りになったと述べ、支援の強化と、調査資料の効果的活用を求めました。

調査対象は大学生、求職中の若者、働く若者です。そのうち、働く若者はウェブ調査によるもので雇用形態は正規雇用が95・8%、収入は平均よりも高い傾向でした。しかし、これまでの対策の不十分さを指摘した真下議員の質問に、道は、児童扶養手当の支給、母子家庭等就業・自立センターによる就業相談、高等職業訓練促進給付金の対象資格拡大などのほか、支援制度の周知に努め、ひとり親家庭への経済的支援につとめると答弁。

資格取得に必要な高校卒業の学歴がない中学卒業の保護者に対しては、高校合格支援の事業を使って支援すると答えました。

また、「奨学金を返済しながら子育てすることへの不安」がある「は4割を超え、「子どもの教育費が心配」は7割「あり」でした。家事育児への協力で、男女に認識の差が大きく、ジェンダーギャップがあることもわかりました。

道は、子どもの貧困対策等に反映するための基礎資料とするほか、庁内横断的な北海道子どもの貧困対策推進会議、地域ネットワーク会議など幅広く調査結果を活用すると答弁。

真下議員は、「今回の調査では、より不安定な就労状況や、言いたくない就労環境にある若者の状況までは見えてこない。また、キャッシングなどやりくりや借金なども今は実態を把握しながら対策が必要」と指摘し、より実態を把握するよう求めました。



ヒグマと共存できる保護・管理を

北海道では、江別市の野幌森林公園で78年ぶりにヒグマが目撃されたほか、札幌市など都市部の住宅地や農地で、野生のヒグマが頻繁に目撃されています。札幌市で一頭駆除されましたが、人身事故は過去10年間で死亡事故6件、負傷事故21件、農業被害は約2億円に増加、家畜被害



もであるなど、住民生活に大きな影響が出ています。

9月3日の環境生活員会で、真下議員は「ヒグマの生息地である北海道で、安全に野生ヒグマと人間が共存できるように保護・管理していく必要がある」とのべ、道のヒグマ管理計画の見直し、専門職員の配置などについていただきました。

北海道は1989年度まで行っていたヒグマの春駆除をやめました。2012年度の生息数は、3900頭から1万7300頭の間に推測され、急増していると指摘されています。道は2017年にヒグマ管理計画を策定し、問題個体対策と保護などにとりくんでいます。猟師の高齢化などにより狩猟による捕獲が減少。麻酔銃は環境省通知でクマ類に

は使用しないことになっており、有害性を判断して銃や箱罠で捕獲する許可捕獲が増加しています。2017年度は1962年について多い851頭を捕獲しています。しかし、クマとの遭遇が増加する現状は、効果が上がっているとは言えません。

真下議員はヒグマの調査とともに、「座学1日の職員研修では人材育成は不十分。地域対策協議会の中心的役割を果たすヒグマ管理官など、専門性を備えた職員の育成が必要」と主張。人間側にも市民講座やパンフレットなどによるヒグマの理解促進が必要とのべました。

築地原康志環境生活部長は、近年の動向や専門家の意見、真下議員の提案も参考に、ヒグマ管理計画の見直し必要と答え、人とヒグマが共存できる社会めざすと答えました。

第3回定例道議会開会

10日から第3回定例道議会が始まりました。カジノ誘致とギャンブル依存症対策、地方路線存続、幌延深地層研究の期間延長問題、アイヌの先住民族権、受動喫煙、子どもの貧困対策など盛りだくさんの課題にとりくみます。



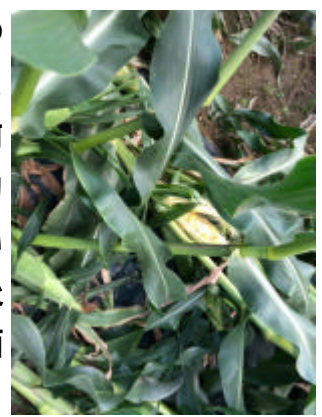
上川総合振興局に要望

6日、旭川市議団とともに上川総合振興局を訪ね、2019年度道政執行及び2020年度予算編成に関する要望を行いました。要望書は、JRなどの交通政策、農業政策、中小企業対策、地方交付税、医療、介護、障がい者支援、国保制度、子育て支援、教育、除排雪、防犯・安全対策の各分野について、市民から寄せられた要望などをまとめたものです。佐藤卓也局長・今井俊文副局長の他、各担当部長・課長から答弁と説明があり、意見交換を行いました。



アライグマ被害を調査

4日、アライグマ被害最多の空知総合振興局、新十津川町のファームを現地視察。畑ではスイートコーンが食べられていました。新十津川町、JA、振興局からとりくみを聞き、収穫直前の食害に心が折れそうになりながら農地を引き継ぐために努力されていました。ヒグマと違って特定外来生物に指定されているアライグマは撲滅の対象とされています。ペットとして最後まで面倒をみないで放して野生化したのがそもそもの原因。箱ワナに捕獲された痛々しい姿を見ると人間の責任を痛感させられます。広域でのとりくみの必要性などについて質問しました。



被害にあったスイートコーン